

「シャーガス病対策そのものが、人間の安全保障を実現！」

中南米特有の寄生虫病「シャーガス病」は、貧困層が多く感染するため、「貧困層の疾病」と呼ばれる。2010年までに感染中断¹を目指す「中米シャーガス病対策プロジェクト」²は、どう人間の安全保障に貢献しているのか。2人の専門家が語る。

貧困層に直接裨益する

中川 シャーガス病は、感染の8割以上がわらびき屋根や土壁に生息するサシガメ（吸血性カメムシ）によって媒介されるので、そうした家屋に暮らす極貧の人々が感染する病気なんです。シャーガス病対策プロジェクトでは、「人間の安全保障」の考え方に基づいて、まさにその貧困層への脅威を取り除くためにさまざまな関係者が協力、活動しています。具体的にどう人間の安全保障に貢献しているかという...

小島 まず、今言ったようにシャーガス病の脅威にさらされる貧困層に直接裨益すること。感染すると心臓疾患など治療不可能な慢性疾患にかかり、10〜20年後に発病するのですが、治療費がかかったり働き手を失ったりして社会経済的負担が大きいので、予防することで貧困層の経済的負担を軽減し、「欠乏からの自由」につながる。また感染の「恐怖」からも解放されます。中川 プロジェクトではサシガメの駆除などサシガメ対策や予防啓発教育を行っています。保健セクターだけでなく、学校など教育セクターや地方自治体と密接に連携して取り組むので、マルチセクターのアプローチ

も可能です。シャーガス病は分かりやすい切り口なんです。サシガメを減らすために家をきれいにすることで生活改善につながるし、病気にならないことで貧困対策になる。住民はサシガメを見つけたら保健所に連絡し、保健所が駆除しに村に入るので、行政と村のつながりや、村の中のみとまりも強くなりますよね

小島 プロジェクトは中央と地方の保健省、自治体、コミュニティ・住民のキャパシティ・デイベロップメントを通じて、人々が安心して暮らせる社会づくりに取り組んでいます。中央の保健省には私など専門家が、県レベルでは青年海外協力隊が支援しています。中川 広域専門家としての私の役割は、中米イニシアティブという域内のシャーガス病対策を推進している米州保健機構（PAHO）やほかのドナーとの連携、プロジェクトの全体的な質の管理、域内協力の推進などです。例えばホンジュラスで機能した事例をほかの国に紹介するなど、域内で経験知の共有化も図っています。専門家や協力隊が連携して、コミュニティから中央、さらに広域までつなげることができるのが、ほかのドナーにはできないJICAの強みですね。

中川 実はこのプロジェクトが始まる以前は、貧困層の人々はサシガメが病気を媒介することを知らなかったんです。だから被害の大きさが見えていなかった。小島 貧困層には発言力も発言権もなかったため、毎年何万人単位で被害が出ていたにもかかわらず、無視され続けてしまった。プロジェクトは彼らの声を拾うきっかけになったといえます。

中川 JICAがこういうプロジェクトを始めたことで、貧困層に光が当てられるようになりました。シャーガス病対策の使命は、一人でも多く病気にならないようにすること、それによって貧しい人々が自分の将来や人生について選択する幅が広がります。対策を実行すること自体が人間の安全保障の実現なんです。



ホンジュラス国シャーガス病対策専門家
小島 路生

中米シャーガス病対策広域専門家
中川 淳

Kojima Michio

Nakagawa Jun

1 新規患者が出ない状態

2 プロジェクトの詳細は本誌6〜9ページ参照